

於大の方も愛した花 “幻の花”

一般公開期間 6月4日(木)～18日(木) 花かつみ

草木地区にある花かつみ園で、保存会の皆さんにより大切に保護されている「花かつみ」の一般公開が始まります。

<をみなえし 咲く沢(佐紀澤)に生ふる 花かつみ かつても知らぬ 戀もするかも >

万葉集に、中臣郎女が^{なかとみのいらつめ}大伴家持^{おおとものやかもち}に贈った歌があります。後に松尾芭蕉が『奥の細道』に記したように「花かつみ」は捜し求めても見つからない幻の花といわれてきました。

阿久比町ではアヤメ科の多年草で6月上旬から中旬にかけて鮮やかな紫色の花を咲かせる野花菖蒲(ノハナショウブ)のことを「花かつみ」と呼んでいます。

室町時代に伯耆の国(今の鳥取県)から草木の下芳池に移植されたと伝えられ、桶狭間の合戦の際には、徳川家康の生母於大の方が家康の武運長久を願い、坂部城で「花かつみ」の「勝つ」という名前に思いを込め、仏前に捧げたという伝説も残っています。

大正時代には、絶滅してしまっただとも言われましたが、昭和になって草木の俳人竹内丁子が自生の一株を発見し、地元の人々によって密かに保護されてきました。

昭和62年には、「花かつみ保存会」が結成され、同年「花かつみ園」が開園して以来、保存会の皆さんの努力で、毎年人々を魅了する花を咲かせています。

一般公開の期間

6月4日(木)から18日(木)まで
午前9時から午後4時まで

和太鼓かつみの披露(雨天中止)

6月14日(日)

午前11時からと午後2時からの2回

早朝公開(写真撮影など)

6月13日(土)・14日(日) 午前6時から

* 開花状況などにより、公開期間、行事内容を変更する場合があります。

期間中、短歌・俳句・狂俳などの作品を募集します。
園内のボックスに投函してください。

問い合わせ先 社会教育課 ☎(48)111(内262)

